伊豆沼・内沼に関心を持ち、関わり続けること それが、水辺のまちの共生スタイル

①

③

②

①～③(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団が主催する伊豆沼・内沼水辺の探検隊事業。沼の自然と関わることで、環境の大切さを学んでいく。
④～⑥(一社)くりはらツーリズムネットワークが主催する、日曜日のゴミ拾い事業。毎月ボランティアが参加し、伊豆沼と内沼周辺のごみを回収する。
⑦日曜日のゴミ拾い事業を通じて、子どもたちは沼周辺の自然に触れ、毎回発見を楽しみながら、たくましく成長を重ねている。

保全の問題

長年、伊豆沼・内沼では、保全に多くの努力と人々の協力が重ねられる一方で、その保全と逆行することも人の手により起きています。

一般社団法人くりはらツーリズムネットワークが毎月第1日曜日に開催する「日曜日のゴミ拾い」では、年間を通じボランティアによる伊豆沼・内沼周辺のごみ拾いが続けられています。そこでは、茂みに隠すように捨てられた空の弁当容器や缶や瓶、タバコの吸い殻など、多くのごみが回収されています。

また、公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団が毎年3月に開催する伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンでは、毎回、約千人が参加し、廃タイヤや廃家電までもが回収されています。

伊豆沼・内沼があるのは当たり前じゃない

秋から冬の間、上空を編隊を組んで飛ぶマガンやハクチョウたち。この光景は、市内に住む私たちとって、見慣れた光景です。しかし、それは、今回の取材から、決して当たり前ではないことが分かりました。

約半世紀前、伊豆沼・内沼のラムサール条約登録に向け議論を重ね、歩みを進めた人、ブラックバスにより一度崩れた生態系を必死に回復させた人、沼周辺のごみ拾いをする人など、多くの人の思いと協力の上に、今の伊豆沼・内沼があります。

また、財団の嶋田研究室長は言います。「沼の自然は、人が良い方向に手を入れることで保たれる」と。これは、これからも沼の保全に、多くの人の協力が欠かせないことを示しています。

沼の未来は私たちと共にある

ラムサール条約登録から来月で40年。人と沼と渡り鳥の関係は、ワイズユースの関係にあり、水辺のまちに住む私たちだからこそ、できる共生のスタイルです。そして、その関係を維持すること、伊豆沼・内沼に関心を持ち、保全や体験活動を通じて関わり続けること、それが、地域の、そして、世界の宝である伊豆沼・内沼を未来へつなぎます。

水辺のまちの共生スタイル。伊豆沼・内沼の未来は私たちと共にあります。

⑦

④

⑥

⑤

伊豆沼・内沼の自然体験・保全イベント開催

伊豆沼・内沼の自然環境を「知る」、「守る」さまざまなイベントが開催されています。水辺のまちの共生スタイルを実践してみませんか。

●伊豆沼・内沼自然体験講座

ラムサール条約登録４０周年を記念した自然体験講座を開催中です。

第５回伊豆沼研究室

□日時　９月２０日(土) 午前９時３０分
□場所　宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター(若柳字上畑岡敷味１７－２)
□定員　２０人(小学４年生以上)
※先着順
□費用　１人 1,５００円

※この他にも講座があります。申し込み方法など詳しくは、ウェブサイトを確認してください。

県サンクチュアリセンターウェブサイト
体験講座

●スワンプロジェクト

伊豆沼・内沼に飛来するハクチョウの飛来ルートやハクチョウに取り付けたＧＰＳカメラが撮影したハクチョウ目線の光景などを確認できます。

スワンプロジェクトウェブサイト
ハクチョウの背に乗って

共通事項

問 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
☎(３３)２２１６

●日曜日のゴミ拾い

□日時　毎月第１日曜日
午前９時～午前１０時３０分
※１１月、令和８年１月は第２日曜日
□集合場所　栗原市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターつきだて館(昆虫館)
(築館字横須賀養田２０－１)
□申し込み　不要

●伊豆沼・内沼エコツアー「マガン観察」

□開催期間　１０月中旬～１２月上旬　※要予約
□内容　①飛び立ち　②ねぐら入り
□参加費　１人 4,５００円
※２人～５人まで(６人以上は要相談)

●伊豆沼・内沼周辺サイクリング・ハイキング

□開催期間　通年　※要予約
□内容・費用　要相談

※この他にもイベントがあります。詳しくは、ウェブサイトを確認してください。

くりはらツーリズムネットワークウェブサイト

共通事項

問 一般社団法人くりはらツーリズムネットワーク
☎０９０(４８８９)５３１０